

夢のアンテナ＝「スーパーラド」

de J A 1 R I Z

このアンテナは、50.240 モービルグループのロールコールにおいて、形はコンパクトで又、簡易な設置法であっても、他の局と遜色のない『波』を飛ばしている JJ1GUW 局が使用しているアンテナである。

「スーパーラド」ANTの原理は、LC同調回路の二次コイル（1ターン）から電波が飛び出してくるということらしい。今までの常識で考えると不思議としか言い様のないANTであると思う。

製品として販売されているものは、1.9～7MHzであり、いわゆるローバンド（LB）用である。確かに（LB）1.9MHzのフルサイズ・ダイポールでは80m程のワイヤーを展張するのは場所の確保が大変だ。又、延長コイルを巻いたホイップでは、4～5mのサイズでも非常に飛びが悪かった経験がある。（製作と設置条件がNGなのでは・・・という御意見もあるかもしれない hi hi ）

しかるに「スーパーラド」の様なコンパクトなもので、ある程度の成果が出るならば、移動運用の幅も広がるし、また都市部でLB運用したい局には吉報である。東京都内のような市街地でもチョット停車できるスペースさえあればQRV可能となるのである。

LBでは調整がクリチカルのようなようではあるが、その煩雑さがあっても、大いなる価値があるアンテナではないかと思う。

関連HPを拝見すると、製品で踏襲されているオーソドックス(?)なものから、トロイダルコアを用いた変形スタイルのものまで、色々なものが実験されている。以前から小型アンテナとして『磁界』ANTというような表現のANTが発表されていたが、それに属するものであろうか。電波の伝搬は、磁界と電界が鎖交（クサリ状に90度ずつ、つながった状態）して伝搬してゆく。ダイポールアンテナ等ではアンテナ近傍では主に磁界の勢力が強い伝搬、ある程度の距離（波長数）離れると電界による伝搬などとする解説もある。その点では、磁界を効率よく輻射できれば電界も効率よく飛んでゆくのでは・・・と考えてもおかしくないという事になるだろうか？

いずれにしても、色々な考えがあっても（電界主体でも磁界主体でも、両方でも）電波がよく飛ばばそれで良いのであって、理由付けはその後でも良いのだ・・・。

その様な点で、アマチュア的に取り組むのにはよい課題ではないか。

ホームページ上での各局の試作実験では6メータUPのものが多いが、好成績の結果が紹介されているのでたいへん希望が持てるといえる。

さらにアンテナが、長波に属する135kHz帯にでも応用できれば、このバンドの移動運用も可能になり、面白い結果が出るかもしれない・・・。夢の広がるアンテナである。

多くの局がいろんなバンドで実験されることを望みたい。今冬シーズンの研究課題として選んでみるのも意味があるのではないだろうか。

（以 上）